うなぎの寝床 愛媛大洲店

「絣ってなんだろう？～久留米絣を通して伊予かすりを知る～」

うなぎの寝床愛媛大洲店では、「絣ってなんだろう～久留米絣を通して伊予かすりを知る～」が 4 月 22 日（月）まで開催しています。

本企画展は伊予かすりについて一緒に考えたいと思い企画しました。久留米絣を通して伊予かすりはどのように作られていたのか、絣にはどのような柄があるのかを知ってもらい、伊予かすりについて皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

【概要】

うなぎの寝床の創業地である福岡県の筑後地域は久留米絣という伝統的な織物の産地です。その産地のなかで私たちは MONPE や KAPPOGI といった久留米絣の生地をつかったプロダクトを作り続けてきました。そして愛媛県には伊予かすりがあり、広島の備後絣、福岡の久留米絣と並びかつては三大絣産地の一つとして明治時代後期には

全国一の絣生産量を誇りました。伊予かすりのある風景が愛媛県人の暮らしの中に当たり前にあったのではないかと想像します。

しかし、洋服の普及や産業構造の変化に伴い伊予かすりの生産は減少していき、現在、絣のほとんどの生産は久留米絣が中心となっています。福岡では電車や街中で久留米絣を見かけることがありますが、愛媛県では普段の生活の中で伊予かすりを見る機会は滅多にないように感じます。

本企画展では以下 4 つの展示を設けて、久留米絣を通して伊予かすりを知れるようになっています。

1.「絣ってなんだろう？」

絣とはどんな織物なのか、どのようにして織られているのかを知ってもらうためのブースです。絣の多様な柄と模様は、プリントではなく、織る前に糸を１本１本染め分け、その糸を織ることで柄を作っていきます。動画も交えて簡易的ですがこれらの工程を紹介しています。織られる過程や現代の久留米絣の道具を見てもらうことで絣を知ってもらえます。

2.「久留米絣を知る」

うなぎの寝床の創業地である福岡県の筑後地域は久留米絣という伝統的な織物の産地です。久留米絣には多種多様な柄があり、かつては普段着の着物として使われており、現在でも反物幅（36cm）で織られています。久留米絣にはどんな柄があるのか、そして反物の幅で織られた生地をどのように現代でも活用できるのかを紹介します。

3.「3 大絣産地の今」

かつての三大絣産地の一つ、「備後絣」がある広島県は今やデニムの産地へと変わっていきました。また、備後絣はその伝統から派生した新しい生地ブランド「備後節織」として今でも織られています。そして愛媛の織物といえば「今治タオル」です。愛媛には伊予かすりがあり綿織物が盛んな地域だったからこそ今治タオルが盛んになる土壌があったのではないかと推測します。久留米絣、備後絣、伊予かすりの 3 大絣産地の今を知ることはこれまでの織物産業の歴史を知るきっかけになると考えています。

4.「絣の奥深さと可能性」

うなぎの寝床はこの 10 年間、久留米絣について、産地について日々問いながら活動を続けてきました。そして、これから先の久留米絣や産地に対して、地域文化商社として何ができるだろうか？と悩み、考えて、定番 MONPE のリニューアルを決定しました。新しく加わる MONPE ではくくりでの柄の表現の可能性や、シャトル織機から生まれる生地の風合いと多様さ、絣での縞模様の新たな表現を模索しています。織物生地の奥深さを感じてください。

本企画展のみならず、絣をより身近に感じ、体感をしていただくために、「もんぺ博覧会」を 6 月 7 日（金）から 6 月 16 日（日）にかけて開催します。うなぎの寝床だけでなく、久留米絣の織元のもんぺが期間限定で見られ、さらには伊予かすり柄のもんぺの発売も予定しています。久留米絣を通して伊予かすりを考える場をこれからも作っていけたらと思います。

【うなぎの寝床とは？】

うなぎの寝床は、福岡県八女市を拠点とし、地域に伝わる歴史や文化を独自に研究し、現代において経済的・社会的につないでいく仕組みを見出す「地域文化商社」です。

2012 年 7 月の創業から、次世代へ継承していく「地域文化（ものづ くり、まちづくり、食文化など)」の価値を見立て、社会とコミュニケーションを取れる商品・サービスを構築し、それ が浸透していく仕組みを整え、つくりて（生産者)、つなぎて（地域文化商社)、つかいて（生活者)、そしてその先に ある地域資源や自然も含めた生態系をつないでいきます。

HP：https://unagino-nedoko.net/

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

株式会社うなぎの寝床　愛媛大洲店担当：沼倉

電話：0893-57-6303

メールアドレス： u-oozu@unagino-nedoko.net